

モルドバ人による日本文化紹介事業 ～日本の発酵食品の紹介～

平成29年5月26日

5月10日、キシナウ市にて、川崎アネッタさん（モルドバ人）にモルドバ人を対象として日本の発酵食品についてプレゼンをしていただきました。川崎さんは日本在住ですが、「モルドバに一時帰国する際には是非日本の発酵食品についてプレゼンをしたい。日本の素晴らしい食文化についてモルドバ人に知ってほしい。」という川崎さんの熱意に感化されて、モルドバジャパン（MJ）とモルドバ日本文化文明協会（MJ）の現地パートナー団体）の共催で本事業を実施いたしました。

同イベントには、モルドバ工科大学食品技術学科教員、モルドバ農業大学教員、モルドバ国立大学学生、モルドバ国営放送局関係者、農業省・外務省職員、日本大使館関係者、日本語学習者等、60名近い方々にご参加いただくことができました。プレゼンでは、お茶・味噌汁・納豆などの試食を交えながら、川崎さんが日本で学んだ味噌や出汁などの発酵食品につき、「うまみ」をキーワードとして紹介いただきました。「うまみ」という概念はモルドバではほぼ知られておらず、川崎さんより、「どういったものを『おいしい』と感じるのでしょうか？『おいしい』とは何でしょうか？」という質問に答えられる参加者はおらず、日本で発見された「うまみ」という概念を紹介すると、参加者の皆さんはとても感心している様子でした。また、複数の参加者に納豆をかき混ぜてもらい、初めて接する納豆に戸惑いつつも皆さん躍起になってかき混ぜていておられ、会場は大いに盛り上がっていました。納豆の試食では、意外にも9割近い参加者が試食し、その内のほぼ全員が「美味しい！」「面白い味だ」と言っていたこともとても印象的でした。

参加者の皆さんからは、「日本文化は素晴らしい。とても興味深いイベントだった。是非また同様のイベントをやってほしい。」、「日本の新たな文化を知ることができて、日本との距離がまた近くなったように感じた。」との声を多数聞くことができました。

今回、日本の食文化をモルドバ人の視点でモルドバ人に紹介するという形態をとったことで、我々日本人には当たり前のように思っているものを（うまみという概念や、納豆をかきまぜ食することなど）モルドバ人の関心に併せて分かりやすく紹介してもらうことができました。この場をお借りして、スピーカーの川崎アネッタさんに御礼を申し上げます。今後も、モルドバジャパンは、日本食を含めた日本文化につき、モルドバの方々に知っていただく機会を提供していきたいと思っています。



モルドバ日本文化文明協会ブラドゥツァヌ理事長による
開会の挨拶（モルドバジャパン川村理事も挨拶）



スピーカー・川崎アネッタさん



会場の様子



鰹節を興味深く嗅ぐ参加者



納豆を必至に混ぜる参加者



納豆を気に入った参加者



納豆に興味深く食べる参加



納豆を気に入った親子



たくあんを配るモルドバ日本文化文明協会スタッフ



たくあんを興味深く嗅ぐ参加者



味噌汁を作るモルドバ日本文化文明協会スタッフ



昆布を興味深く嗅ぐ参加者



日本の発酵食品に感動して自ら前に進み出て、
日本文化を称賛する農業大学教授